

宮城県観光復興対策実施計画 令和元年度評価調書

別紙

都道府県名	宮城県	計画に包摂される市町村	塩竈市、気仙沼市、白石市、名取市、登米市、栗原市、東松島市、大崎市、蔵王町、七ヶ宿町、大河原町、村田町、柴田町、川崎町、丸森町、亶理町、松島町、涌谷町、南三陸町				
計画期間	平成28年度～令和2年度	評価責任者	宮城県経済商工観光部参事兼観光課長 佐藤 静哉				
計画の成果目標(定量的指標)		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	備考
指標①	外国人延べ宿泊者数	19万7千人	24万8千人	31万4千人	39万6千人	50万人	
指標②	外国人旅行消費額	66.8億円	84.3億円	106億円	124億円	145.1億円	
指標③							

1 定量的指標に関連する交付金事業の効果の発現状況	宮城県の外国人延べ宿泊者数の増加(H30 36万4千人 → R01 53万4千人【観光庁 宿泊旅行統計調査より】) 宮城県の外国人旅行消費額の増加 (H30 216.6億円→ R01 439.7億円【観光庁の共通基準に基づく宮城県調査より】)				
2 定量的指標の達成状況	指標① 外国人延べ宿泊者数	目標値	39万6千人	目標値の実現状況に関する評価	東北観光復興対策交付金を活用した取組の成果があったほか、令和元10月30日に就航したタイと仙台空港との直行便の増便などにも後押しされた。
		実績値	53万4千人		
	指標② 外国人旅行消費額	目標値	124億円	目標値の実現状況に関する評価	外国人旅行消費額については、特にビジネス目的の観光入込客による増加が影響し目標値を大きく上回った。今後も県内周遊コンテンツの造成や受入環境の整備等を進める等、さらなる消費額の増大を図る。
		実績値	440億円		
	指標③	目標値		目標値の実現状況に関する評価	
		実績値			
3 事業の進捗状況	海外の地域特性や個人のニーズを的確に捉え誘客につなげるため、デジタルマーケティングの手法を取り入れて効果的に情報発信を実施したほか、受入環境整備や滞在コンテンツの充実・強化にも力を入れた両輪で事業を進めた結果、外国人延べ宿泊者数は目標を上回る成果があったことから、全体的に順調に進捗したものと判断する。しかしながら、令和2年3月からの新型コロナウイルス感染症の拡大で海外との往来が制限されて以降、当初予定していた多くの事業について進められていない状況にある。				
4 評価方法	宮城県の「行政活動の評価に関する条例」に基づく政策・政策評価による				
5 中間評価の公表方法	県のホームページにて公表する。				
6 計画全体の総合評価	本観光復興実施計画では、東北観光復興対策交付金を活用したコンテンツ造成と受入環境整備、戦略的なプロモーションを連動させながら取り組んでおり、これまでの積み重ねが観光入込客数や観光消費額の増加、及び外国人延べ宿泊者数の伸び率の上昇につながったものと分析している。個別に見ると、重点市場に掲げている韓国と香港において国際感情や治安悪化などの理由から、予定通りに進められなかった事業があったものの、全体としては東北が一体となったプロモーション活動によって、タイとの直行便が再開するなど、仙台空港発着の国際便数が着実に増加したことが支えとなって、本県が掲げる2020年目標値である「年間50万人泊」の目標を一年前倒しで達成し、目標を大幅に上回る実績となった。				
7 今後の方針等	令和元年度は本県の観光復興対策実施計画に掲げる訪日外国人延べ宿泊者数と外国人旅行消費額の目標を両方とも達成したが、2020年2月以降の新型コロナウイルス感染症の蔓延と東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の1年間の開催延長により、訪日外国人延べ宿泊者数の著しい減少が続いている。予定していた事業の見直しも検討しながら、2021に延長した東京オリンピック・パラリンピック競技大会と、2021年4月から9月までの東北 destinations キャンペーンが控えていることを踏まえ、海外渡航の解禁後にただちにインバウンド誘客のための各種事業に取りかかれるよう準備を整えておく。				